

# 女子短期大学生の家族観

— 変わってきた意識・個人としてどう生きるか —

Students' View of Family Life in Women's Junior College

— Changing Family Consciousness and Speculating the Lifestyle as an Individual —

赤 根 由 利 子  
Yuriko AKANE

## 1. はじめに

現代の日本の社会が抱える大きな問題に、少子化社会がある。厚生労働省「人口動態統計」によれば第1次ベビーブーム期には、合計特殊出生率（ひとりの女性が生涯に産むと推定される子どもの数）は4.3を超えていた。しかしその後急激に低下し、第2次ベビーブーム期には2.0レベルまで低下し、さらに低下傾向が止まることなく進み続け、2003年には「超少子化国」呼ばれる水準である1.3を下回り、さらに2005年には過去最低である1.26まで落ち込んでしまっている。2009年に発表された2008年度の合計特殊出生率は、前年の1.34から1.37に上昇したが、依然として人口が減少する時代である。このような低下の原因には、非婚化・晩婚化や出生率の低下が考えられる。女性の高学歴化が進み、就業によって自立志向が強まり、多様な生き方が選択できるようになっている。また、少なく生んで豊かな生活の中で育てたいという志向や、家事・育児と仕事の両立の難しさ等がある。これまでもこれらを支援する社会的な施策が次々と発表され、対策が実施されてきたのは周知のことであるが、効果がみられない状況である。

ほとんどの人々は家族の中に生まれ、人として育てられ、人間になり、生活して一生を終えてゆくのため、人間にとって家族は大変重要であることは誰もが認めることである。しかし、このような現在の状況をみると、女性の結婚・家族や生き方に対する意識や考えが変わってきたのではないかと思える。

そこで本報では、卒業を間近に控え、新生活をスタートする女子学生を対象に、結婚観、ライフコース観、性役割観、家族観等を取りあげ、家族意識について調査を行った。

今回の調査は家族をめぐる問題を考える基礎資料とするために実施した。

## 2. 調査の結果と考察

### (1) 調査の概要

すべての学外実習を終了し、卒業が間近になった本学2年生の女子学生244人（保育科158人、人間生活学科人間福祉専攻26人、人間生活学科健康栄養専攻60人）を対象に、2008年12月に調査を行った。調査項目は、国立社会保障・人口問題研究所で行っている「結婚と出産に関する全国調査（独身者）」や結婚や家族に関する先行調査等<sup>1)~6)</sup>を参考に設定し質問紙調査を行った。回収率は100%であった。

### (2) 結婚に対する意識や考え

結婚はこれまで、誰でもしかるべき時期に経験するふつうの出来事であり、家族研究においても生殖家族の形成は、しかるべき時期に達成される課題とされていた。また社会においても期待された事であり、皆婚規範も強く、結婚することは当たり前とする意識が一般的であったが、現在は未婚化が進行している。表1は“結婚しない生き方についてどう思うか”を尋ねた結果であ

る。「わからない」と答えた者が49.2%と1番多かったが、次いで「賛成」が44.7%となり、「反対」は僅か5.7%のみであった。現在の結婚は当たり前でなく、個人が自由に行うことであるとする考えが浸透していることがわかる。それでは、将来の結婚への意欲はどうであろうか。表2は、この先の結婚の意思について尋ねた結果である。「必ず結婚したい」が57.8%、「できればしたい」が32.8%となり、必ずとできればを合わせると90.6%がいずれは結婚しようと考えており、「どちらとも言えない」「あまりしたくない」「まったくしたくない」といった消極的・非婚志向と言える者は合わせると9.4%であった。大多数は結婚への高い志向性を示していた。

表3は“もし結婚するとしたら何歳ぐらいの時に結婚したいか”を問うた結果である。20歳から30歳までと答えており、その中で25歳が37.3%と一番多く、次いで23歳（19.3%）、24歳（13.1%）の順でこれらの年齢への集中傾向がみられ、卒業してから5年後の25歳位までに結婚したいと答えた者が79.5%となった。そして結婚したいと思う平均年齢は24.6歳であった。

表1 結婚しない生き方について

(N=244)

調査項目	人数	(%)
賛成	109	44.7
反対	14	5.7
わからない	120	49.2
N. A.	1	0.4

表3 結婚したい年齢

(N=244)

年齢	人数	(%)
20歳	1	0.4
21歳	5	2.0
22歳	18	7.4
23歳	47	19.3
24歳	32	13.1
25歳	91	37.3
26歳	15	6.1
27歳	10	4.1
28歳	11	4.5
29歳	0	0.0
30歳	7	2.9
N. A.	7	2.9

表2 生涯の結婚の意思

(N=244)

調査項目	人数	(%)
必ず結婚したい	141	57.8
できればしたい	80	32.8
どちらとも言えない	14	5.7
あまりしたくない	5	2.0
まったくしたくない	3	1.2
N. A.	1	0.4

ではどのようなことを結婚に期待しているのだろうか。図1は“結婚という言葉でどのような生活の変化があるか”という結婚生活のイメージを尋ねた結果である。「非常にそう思う」と「ややそう思う」を合わせた「そう思う」が高かったのは、「子どもができる」「好きな人と一緒にいられてうれしい」「家族としての絆が得られる」「二人で好みの生活空間をつくる楽しみがある」の項目でそれぞれ順に89.0%、88.9%、87.7%、84.0%と高率であった。一方、「家事の負担が増える」「子育てに苦勞する」では「そう思う」が61.0%、50.8%と5割を超えた。そし

て「やりたいことが自由にできる」「自由な時間が増える」は「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」を合わせた「そう思わない」が62.6%、59.8%で、「そう思う」は僅か10.7%、9.0%のみであった。以上の結果から、結婚生活は大半が不自由さや負担・面倒を感じながら、子どもをもち家族を中心とした精神的充足が得られると考えていると捉えることができた。

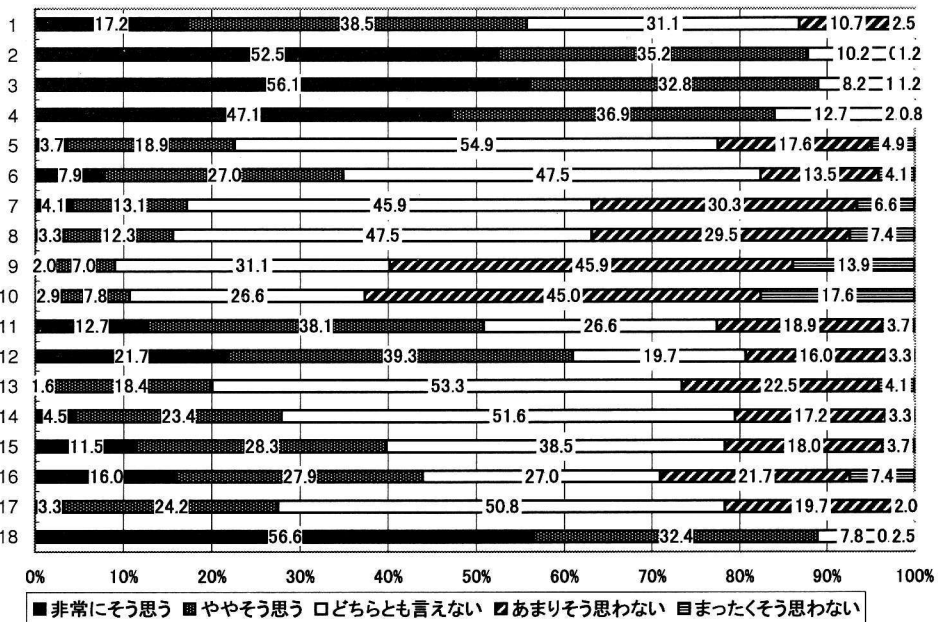


図1 結婚生活観 (N=244)

- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 精神的安定が得られる           | 10. やりたいことが自由にできる     |
| 2. 家族としての絆が得られる         | 11. 子育てに苦勞する          |
| 3. 好きな人と一緒にいられてうれしい     | 12. 家事の負担が増える         |
| 4. 二人で好みの生活空間をつくる楽しみがある | 13. 生活が便利になる          |
| 5. 経済的に裕福になる            | 14. 生活レベルが上がる         |
| 6. 経済的に安定する             | 15. 相手の親の面倒をみなくてはならない |
| 7. 仕事に打ち込める             | 16. 親戚つきあいなどが増えて面倒だ   |
| 8. やりたい仕事ができる           | 17. 社会的に信用される         |
| 9. 自由な時間が増える            | 18. 子どもができる           |

図2は「結婚に対する考え」を尋ねた結果である。「非常にそう思う」と「ややそう思う」を合わせた「そう思う」が特に高かったのは、「子どもを作るのであれば、結婚すべき」86.5%、「安定した収入がないとできないから」84.8%、で子どもを作ることが結婚であり、そのためには安定した収入が必要であるという考えが多数を占めた。また、「自分のけじめ」(68.9%)、「結婚生活をうまくやっていけるか不安」(64.4%)、「相手に対するけじめ」(62.7%)、「愛情以外に求める条件がある」(62.7%)などの考えが6割を超え、結婚は自分や相手に対するけじめであるとい

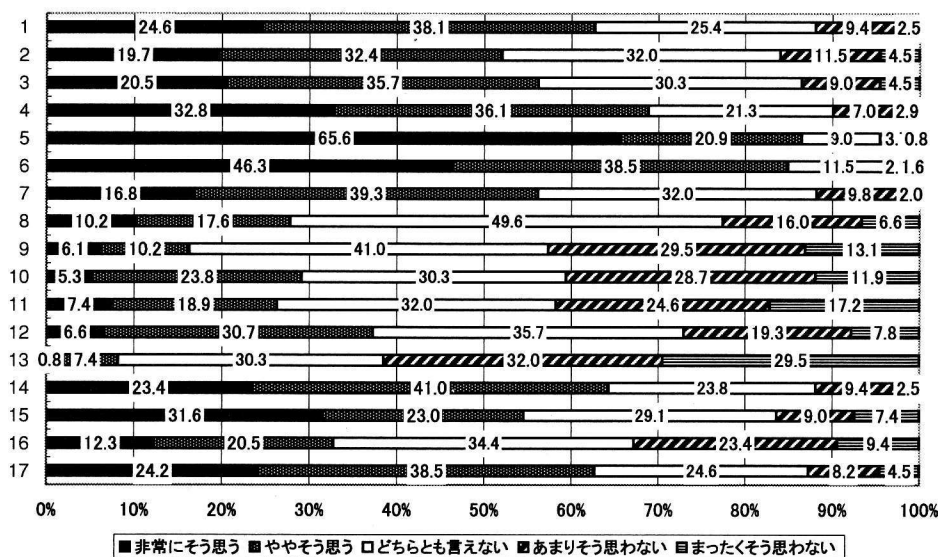


図2 結婚観 (N=244)

- |                      |                           |
|----------------------|---------------------------|
| 1. 相手に対するけじめ         | 10. 経済的な安定を求めて結婚          |
| 2. 相手の親に対するけじめ       | 11. 一人では生きていけないから結婚       |
| 3. 自分の親へのけじめ         | 12. 精神的な安定を求めて結婚          |
| 4. 自分のけじめ            | 13. 結婚する意味や理由がわからない       |
| 5. 子どもを作るのであれば、結婚すべき | 14. 結婚生活をうまくやっていけるか不安     |
| 6. 安定した収入がないとできないから  | 15. 離婚はするべきではない           |
| 7. 結婚は、家族を作るため       | 16. 結婚を意識しない相手と付き合うべきではない |
| 8. 結婚する方が幸せな人生       | 17. 愛情以外に求める条件がある         |
| 9. 結婚するのは当たり前        |                           |

う考えや、結婚に対しての不安な声、愛情だけではないとする考え等があることがわかった。一方「結婚する方が幸せな人生」と言う考えに対しては「そう思う」27.8%、「どちらともいえない」49.6%、「そう思わない」22.6%、「結婚するのは当たり前」という考えに対しては「そう思う」が僅か16.3%、「どちらともいえない」41.0%、「そう思わない」42.6%となり、これらの結果から、結婚が必ずしも幸せな人生になるとはいいきれず、皆婚規範も弱まり、結婚は自分の意思によって選んで行うものとする考えが多数を占めていることが本調査からも明らかになった。

ところで、結婚相手にはどのような条件を望んでいるのだろうか。表4は、結婚相手に希望する条件として19項目を挙げ、その中から2つを選択した結果である。「性格が合う」「収入の安定」がいずれも48.0%で最も重視され、次いで「価値観」30.3%、「家庭を第一に考える」18.0%となった。また図3は別の問に対して、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の中から1つを選択する4段階評価で行った結果である。「自分が仕事を続けることを認めてくれる人がいい」に対しては、「あてはまる」43.4%、「ややあてはまる」38.1%

となり、これらを合わせた「あてはまる」は81.5%で多数を占めた。これら2つの調査結果から、恋愛結婚を反映して「性格」や「価値観」が重視され、同時に社会経済的地位よりも「収入の安定」が重視されていた。また、自分の仕事への理解・協力も重視し期待している結果となった。

表4 結婚相手に希望する条件  
(2つ選択)

調査項目	人数	(%)
価値観	74	30.3
性格が合う	117	48.0
容姿	8	3.3
学歴	0	0.0
職業	14	5.7
収入の安定	117	48.0
結婚暦	2	0.8
家柄・資産	1	0.4
共通の趣味	15	6.1
家事ができる	10	4.1
仕事ができる	13	5.3
自分を束縛しない	14	5.7
自分にない性格	8	3.3
収入が高い	6	2.5
金銭感覚が似ている	4	1.6
家庭を第一に考える	44	18.0
家庭的である	24	9.8
相手の居住地	2	0.8
親との同居	3	1.2
N. A.	12	4.9

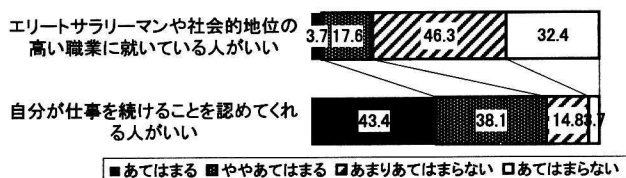


図3 結婚相手はどのような人がよいか (N=244)

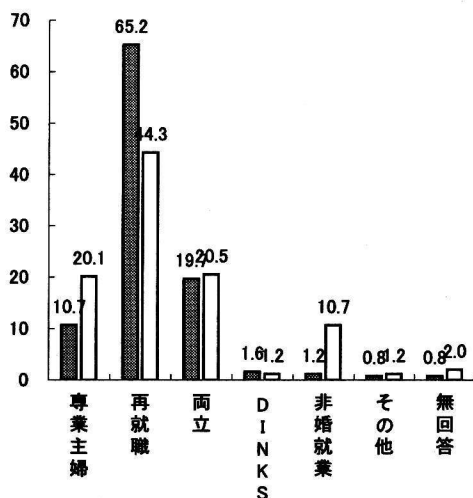
表5 卒業後の進路  
(N=244)

調査項目	人数	(%)
就職する	232	95.1
進学する	8	3.3
在家庭	3	1.2
N. A.	1	0.4

### (3) 就労とライフコース

表5は卒業後の進路について尋ねた結果であるが、95.1%にあたる232人が就職することを希望していた。それでは仕事と結婚もしくは出産、子育てとの関係についてどのように考えているのだろうか。国立社会保障・人口問題研究所で行われているライフコースをもとに調査をした。図4は理想とする人生のタイプと理想は理想として実際になりそうな人生のタイプについて尋ねた結果である。「理想のライフコース」をみると、「再就職」(結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ)が65.2%と多く、順に「両立」(結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける)19.7%、「専業主婦」(結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない)10.7%であり、結婚もしくは出産後、職業か

ら離れて家族役割だけに専念するという「専業主婦」型は1割程度と少なかった。とはいえ、「実際になりそうなコース」では、「再就職」は一番多いが44.3%に減り、その分約10%ずつ「非婚就業」（結婚をせず、仕事を続ける）と「専業主婦」に上乘せされた結果となった。つまり「再就職」を理想とする人でも、現実には結婚しないで仕事のみ生きる「非婚就業」になるのではないかと、あるいは就業しないで「専業主婦」としての生き方になるのではないかと、感じているのである。このことは結婚に消極的な者がいること（表1）や、それに加え先に述べた結婚についての考えで、子どもができるのが結婚であることから、現在の子育て環境や就業状況の厳しさから現実には再就職は困難という思いがあることが考えられよう。



■理想のライフコース □実際になりそうなライフコース

図4 理想・実際になりそうなライフコース (%) (N=244)

また図5は、別の問いに対して、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の中から1つを選択する4段階評価で行った結果である。「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせて「あてはまる」とし、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」を合わせて「あてはまらない」としてみると、「子どもは自分の手で育てたい」は50.9%と48.4%、「結婚しても独り立ちができる収入ある仕事したい」は44.3%と54.5%、「結婚したら仕事を辞めて、趣味や習い事を楽しみたい」は33.6%と65.2%、「子どもがいても仕事をフルタイムで育てたい」は20.4%と78.3%となり、仕事を続けたいという経済的自立志向が伺えるが、子育て期における親役割との調整が問われるのである。いずれにしても、これらの女性のライフコースから、女性の生涯の中で女性にとっても仕事を抜きにした人生設計は考えられなくなってきていると言える。

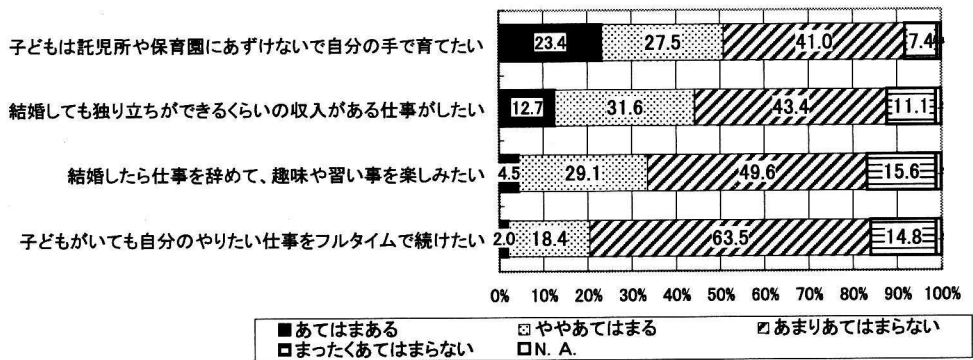


図5 結婚、子育て、仕事に対する考え (N=244)

(4) 性役割観

性役割観はその社会で期待される姿を示す文化と言えるが、家族形成や家族役割と言った『家族』について考える際には重要な視点であると考えられる。図6は性別役割分業観と女性の社会進出志向の側面から性役割観を調査した結果である。「非常にそう思う」と「ややそう思う」を合わせた「そう思う」という回答が多かった順でみると、「女性の社長や政治家がもっと増えたほうがよい」(49.6%)が一番多く、順に「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てたほうがよい」(43.0%)、「家庭にとって重要なことの最終決定は夫が行うほうがよい」(34.1%)、「妻が外で働き、夫は家事・育児を行う夫婦が増えたほうがよい」(11.0%)となり、この項目は「どちらともいえない」が半数以上の60.7%であった。女性の社会参加も活発になり、結婚も男女の対等な人格的結びつきであると言われているが、このような結果をみると、従来の性別分業観を反映した偏りも認められる。

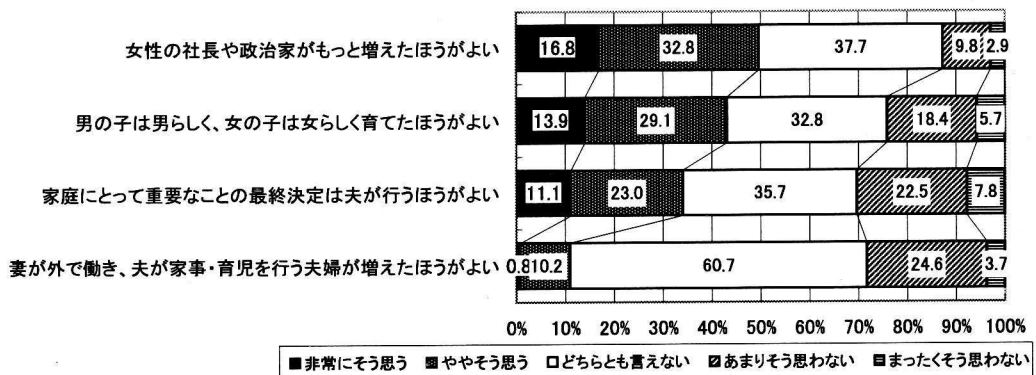


図6 性役割観 (N=244)



(5) 家族観と子どもに対する意識

表6は最初の子どもの持ちたい年齢について尋ねた結果である。第一子を持ちたい平均年齢は25.4歳で、結婚年齢が24.6歳であったので、結婚したらすぐに子どもを希望するという考え方があった。また表7は希望する子どもの数について問うた結果である。2人が1番多く、次いで3人となり、2人から3人が多かった。

表6 第一子希望年齢 (N=244)

	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	31歳	32歳	33歳	N. A.
人数	1	3	13	30	27	51	46	30	14	1	14	0	2	1	11
(%)	0.4	1.2	5.3	12.3	11.1	20.9	18.9	12.3	5.7	0.4	5.7	0	0.8	0.4	4.5

表7 希望子ども数 (N=244)

調査項目	人数	(%)
子どもはいない	5	2.0
1人	5	2.0
2人	148	60.7
3人	78	32.0
4人	6	2.5
5人以上	2	0.8

それでは結婚後の家庭生活や家族についてどのように考えているのだろうか。図7は13の質問項目について、「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」の中から1つを選択する4段階評価で行った結果である。「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた回答を「賛成」、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた回答を「反対」としてしてみると、「賛成」として9割以上が支持した考えは、「育児は同等に分担すべきだ」(94.3%)、「子どもが小さいうちは母親は家にいるのが望ましい」(93.0%)、「結婚後も自分の目標を持つべき」(92.6%)で、8割以上が支持した考えは、「子どもは持つべき」(83.2%)、「自分の意見や気持ちを正直に伝えるべき」(81.9%)であった。また「子どものしつけは母親の責任だ」と言う考えに対しては、「反対」が75.8%であった。一方「結婚に犠牲は当然」や「夫は仕事、妻は家」と言う考えは「賛成」「反対」が五分五分に近かった。これらの結果から、男女は平等になり、家族内でも自己目標を維持する考え等、個人化され新しい家族のかたちが見てとれたが、依然として従来の規範に捉われた家族を支持する考えや、分業規範への根強い意識も伺われた。また、先の結婚に対する考えでも明らかであったが、子どもは結婚してからと言う考えが強く、子どもに対しての考え

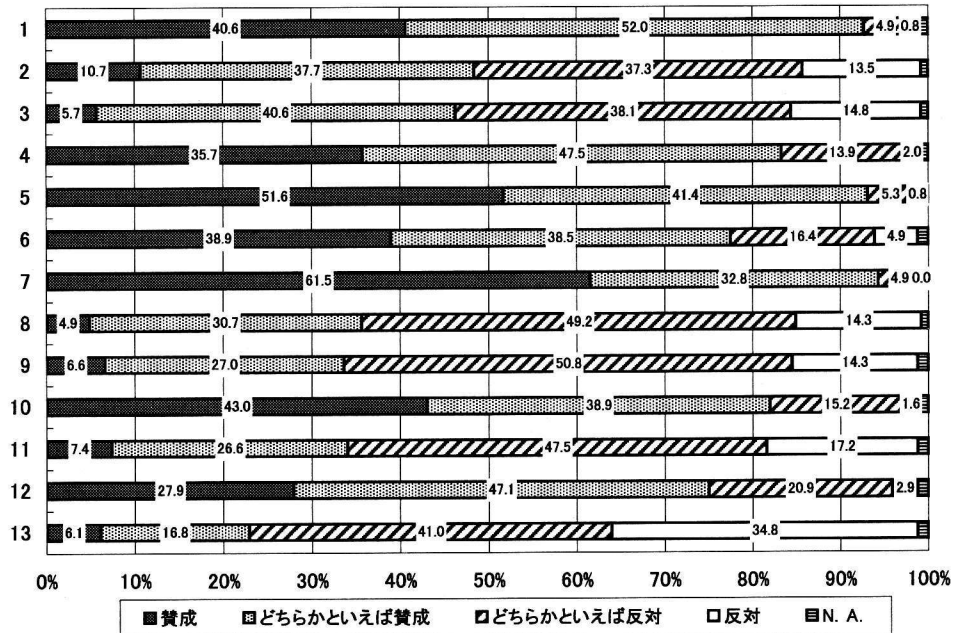


図7 家族観 (N=244)

1. 結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標をもつべきである
2. 結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ
3. 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ
4. 結婚したら、子どもは持つべきだ
5. 少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たず家にいるのが望ましい
6. いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない
7. 育児は夫婦が同等に分担すべきだ
8. 子どもにできるだけ高い水準の教育を受けさせるためには、生活面での多少の犠牲もやむをえない
9. 休日は夫婦子どもが干渉しあうことなく、それぞれが自分の趣味や希望に従って自由な時間を過ごすべきだ
10. たとえ相手を怒らせることになっても、自分の意見や気持ちを正直に配偶者に伝えるべきだ
11. 家庭はくつろぎの場所だから礼儀や気づかいは無用だ
12. 将来のことを思いめぐらすより、その日その日の生活を充実させたい
13. 子どものしつけは母親の責任だ

も家族のありように大きく関わっているといえる。

表8はこどもを持つことの意義を尋ねた結果である。子どもがいると「家庭が明るくなる」と答えた人は90.2%と圧倒的に多い。逆に「老後の頼りになる」「子孫を絶やさないと答えた人の割合はそれぞれ23.0%、21.3%であった。また、老後を子どもに頼るつもりかを尋ねた結果(表9)をみると6割以上が「考えたことはない」と答えた。さらに老親扶養についての考え(表10)は本調査からは「良い習慣」「わからない」「当たり前の義務」にそれぞれわかれた。このように、子どもは家庭を明るくし、自分に楽しみをもたらす存在として考えられていることがわかった。

表8 子どもの価値（いくつでも選択可）

調査項目	人数	(%)
育てることは楽しい	168	68.9
子どもがいると家庭が明るくなる	220	90.2
老後のたよりになる	56	23.0
家業を継いでくれる	7	2.9
家名や財産を継いでくれる	12	4.9
子孫を絶やささない	52	21.3
とくによいことはない	5	2.0
その他	11	4.5

表9 自分の老後を子どもに頼るか  
(N=244)

調査項目	人数	(%)
頼るつもり	43	17.6
頼るつもりはない	30	12.3
考えたことはない	166	68.0
その他	2	0.8
N. A.	3	1.2

表10 老親扶養についての考え (N=244)

調査項目	人数	(%)
良い習慣	86	35.2
子どもとして当たり前義務	65	26.6
施設・設備が不備でやむを得ない	19	7.8
良い習慣ではない	3	1.0
わからない	67	27.5
その他	6	2.5
N. A.	2	0.8

### 3. おわりに

かつては結婚するのは当たり前で、結婚しない人生は選びにくかったが、現在では結婚しない生き方に対する世間の評価も寛容になり、結婚は人生の目標ではなく個人の選択に委ねられるようになる等、結婚観は大きく変化している。就労とライフコースをめぐる意識からも、女性にとっても仕事を抜きにした人生設計は考えられなくなってきており、女性は従来の性別役割観のゆらぎの中で、パートナーに仕事や家事、子育て等の家庭生活への協力や分担を求めている。結婚や家族形成への志向性は高く、本調査においては、20代半ばで結婚し子どもも2、3人持ちたいと考えている者が多かった。また子どもは結婚してからという考えが強く、子どもは家庭を明るくする存在で子どもを育てることは楽しいと捉えている者が多かった。そして、家族に精神的な拠り所としての絆を求め、さらに家族や家庭の中にあっても個人としての生き方を大切にしたいという考えを持っている。これからは自らの生き方のビジョンが問われ、現在の家族においては家族間での意思調整が重要な鍵になると考えられる。また少子化の問題については、労働のあり方や保障の問題等、このような状況にある家族を支援する施策について、更なる見直しや改善が必須であると思う。

参考文献

- 1) 国立社会保障・人口問題研究所編集：平成17年わが国独身層の結婚観と家族観
- 2) リクルート発行：結婚情報誌「ゼクシィ」
- 3) 中井美樹：若者の性役割観の構造とライフコース観および結婚観，立命館産業社会論集，第36巻第3号，2000
- 4) 湯沢雍彦：新版新しい家族学，光生館，1996
- 5) 石川実編：高校家庭科における家族・保育・福祉・経済，家政教育社，2002
- 6) 槇石多希子他：変化する社会と家族，建帛社，2003
- 7) 内閣府：少子化社会白書，平成20年版
- 8) 山田昌弘：迷走する家族，有斐閣，2007

(H17=H) 大きのうりこ調査結果 01表

(H)	種入	目取表
1.22	88	調査/1表
8.95	88	結婚の観りたすア、1.5.1.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.36.37.38.39.40.41.42.43.44.45.46.47.48.49.50.51.52.53.54.55.56.57.58.59.60.61.62.63.64.65.66.67.68.69.70.71.72.73.74.75.76.77.78.79.80.81.82.83.84.85.86.87.88.89.90.91.92.93.94.95.96.97.98.99.100
8.7	81	結婚の観りたすア、1.5.1.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.36.37.38.39.40.41.42.43.44.45.46.47.48.49.50.51.52.53.54.55.56.57.58.59.60.61.62.63.64.65.66.67.68.69.70.71.72.73.74.75.76.77.78.79.80.81.82.83.84.85.86.87.88.89.90.91.92.93.94.95.96.97.98.99.100
1.1	1	結婚の観りたすア、1.5.1.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.36.37.38.39.40.41.42.43.44.45.46.47.48.49.50.51.52.53.54.55.56.57.58.59.60.61.62.63.64.65.66.67.68.69.70.71.72.73.74.75.76.77.78.79.80.81.82.83.84.85.86.87.88.89.90.91.92.93.94.95.96.97.98.99.100
1.12	78	結婚の観りたすア、1.5.1.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.36.37.38.39.40.41.42.43.44.45.46.47.48.49.50.51.52.53.54.55.56.57.58.59.60.61.62.63.64.65.66.67.68.69.70.71.72.73.74.75.76.77.78.79.80.81.82.83.84.85.86.87.88.89.90.91.92.93.94.95.96.97.98.99.100
3.5	8	結婚の観りたすア、1.5.1.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.36.37.38.39.40.41.42.43.44.45.46.47.48.49.50.51.52.53.54.55.56.57.58.59.60.61.62.63.64.65.66.67.68.69.70.71.72.73.74.75.76.77.78.79.80.81.82.83.84.85.86.87.88.89.90.91.92.93.94.95.96.97.98.99.100
8.8	1	結婚の観りたすア、1.5.1.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.36.37.38.39.40.41.42.43.44.45.46.47.48.49.50.51.52.53.54.55.56.57.58.59.60.61.62.63.64.65.66.67.68.69.70.71.72.73.74.75.76.77.78.79.80.81.82.83.84.85.86.87.88.89.90.91.92.93.94.95.96.97.98.99.100

(H17=H) 大きのうりこ調査結果 02表

(H)	種入	目取表
1.17	84	調査/1表
2.51	96	結婚の観りたすア、1.5.1.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.36.37.38.39.40.41.42.43.44.45.46.47.48.49.50.51.52.53.54.55.56.57.58.59.60.61.62.63.64.65.66.67.68.69.70.71.72.73.74.75.76.77.78.79.80.81.82.83.84.85.86.87.88.89.90.91.92.93.94.95.96.97.98.99.100
0.89	100	結婚の観りたすア、1.5.1.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.36.37.38.39.40.41.42.43.44.45.46.47.48.49.50.51.52.53.54.55.56.57.58.59.60.61.62.63.64.65.66.67.68.69.70.71.72.73.74.75.76.77.78.79.80.81.82.83.84.85.86.87.88.89.90.91.92.93.94.95.96.97.98.99.100
0.8	1	結婚の観りたすア、1.5.1.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.36.37.38.39.40.41.42.43.44.45.46.47.48.49.50.51.52.53.54.55.56.57.58.59.60.61.62.63.64.65.66.67.68.69.70.71.72.73.74.75.76.77.78.79.80.81.82.83.84.85.86.87.88.89.90.91.92.93.94.95.96.97.98.99.100
1.1	1	結婚の観りたすア、1.5.1.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.36.37.38.39.40.41.42.43.44.45.46.47.48.49.50.51.52.53.54.55.56.57.58.59.60.61.62.63.64.65.66.67.68.69.70.71.72.73.74.75.76.77.78.79.80.81.82.83.84.85.86.87.88.89.90.91.92.93.94.95.96.97.98.99.100